

# 市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

## 「国際箸学会」

日本人の手先の器用さは幼いころから親しんだ箸と無縁ではないのではないか。箸は日本のものづくりの原点。そんな思いから箸の魅力をもっと多くの人に伝えながら交流を広げようと、有志が集まり平成18年11月に設立された「国際箸学会」を岡村市長が訪問。理事長の小宮山栄氏から、箸を通じた子どもたちとのふれあいや、箸に親しむさまざまな取り組みについて聞きました。



**市長** みなさんこんにちは。風薫る5月を迎えました。東日本大震災の被災地のみなさんの1日も早い復興を心から念じております。さて、今月の市長のふれあい訪問は、国際箸学会理事長の小宮山栄さんです。どうぞよろしく願います。

まず、「国際箸学会」について教えてください。

**小宮山** 箸とおして、人と人とのはし渡しをし、箸の魅力についてもっと多くの人に伝えながら交流を広げています。

**市長** 設立はいつですか。

**小宮山** 平成18年11月です。

**市長** どのようなきっかけから設立したのですか。

**小宮山** 以前から日本のものに興味がありました。たまたま、妻の箸の持ち方が気になって、持ち方を研究したら、ものすごく奥の深いことがわかりました。また、箸がものづくりに深く関係していることに気



づきました。ほかに、箸文化をとおして世界が広がっていくことがあったので国際箸学会を立ち上げることにしました。

**市長** どのような活動をされていますか。

**小宮山** 箸の持ち方の教室や、手作りの「箸づくり教室」、その中で、「箸りんびっく」と名付けた箸を使ったゲームを通じ、箸の使い方を学びます。

**市長** 箸づくり教室はどんな内容ですか。

**小宮山** まず、自分に合う箸の長さを計算して箸をカットし、自由に色を塗ったり文字を書いたりして、世界に一つだけのマイ箸を作ります。

**市長** 課外授業も行っていますね。

**小宮山** 戸塚南小学校で箸づく

り教室を開催しました。

**市長** 子どもたちの箸の使い方はどうでしたか。

**小宮山** 上手な子どももいればそうでない子どももいますが、少し教えれば興味を持ち、上達はすごく早いです。

**市長** まずは家庭で箸の使い方を教えることが大切ということでしょうか。

**小宮山** 家庭での教えが基本だと思えますが、私自身も子どもに教えませんでした。まず、興味を持たせ楽しみなが覚えさせることが必要なのかなと思います。

**市長** 国際交流にも取り組んでおられましたね。

**小宮山** ええ。外国人留学生に箸を日本文化の一つとして教え、「箸ピー」というゲームをとおして、箸に興味を持ってもらうようにしています。

**市長** ゲームをとおして日本の文化を理解してもらおうのですね。ところで「箸ピー」ゲームとはどのようなものですか。

**小宮山** 箱に入った殻付きのピーナツ50個を隣に置いた箱に箸を使って移します。往復しながら1分間で何個移せるかを競うゲームです。

**市長** その競技が「箸りんびっく」の始まりですね。

**小宮山** オリンピックに参加するのは難しいですが、「箸りんびっく」は、誰でもいつでもどこでも参加できます。

**市長** 箸の文化は大変な歴史が

ありますが、理事長は興味を持つだけでなく、それを掘り下げていくから箸の奥深さがわかるのですね。

**小宮山** 何事もなぜだなぜだと考えているとわかることがあり、その発見が面白いですよ。

**市長** その「なぜ」という、問いかけは、とても大事ですね。それでは、今後の国際箸学会の抱負などをお聞かせください。

**小宮山** 箸文化を学び新しい箸文化を作り、箸を通じて世界中の人と喜ぶ。これを買き、川口の人たちにも、出会いの喜びと創造の喜びと達成の喜び、この3つがあつて人生が楽しくなるということを広めていく。このことを目指していきたいと考えています。

**市長** これからも頑張ってください。今日はどうもありがとうございました。

